

暁ばかり憂きものはなし

大森 海太

有明のつれなく見えし別れより

暁ばかり憂きものはなし 壬生忠岑

明け方に女性の家を訪ねたが、フラれてしまったと嘆くプレイボーイの歌である。そんなことはトンと縁遠くたって久しいが、近ごろでは別の意味で暁が憂きものだ。

トシのせいか眠りが浅く、朝がたは妙にリアルな夢を見る。昔会社で一緒に仕事をした人が出てくるが、名前を思い出せない。もう何十年も会っていないけど、今も生きているのかなあ。それもそうだけど、自分だっていつまで生きられることやら、ボケて長生きするのか、病気になるのか。半分以上は夢から覚めて、物思いはあちらこちらへ行きつ戻りつ。

世の中には口クなことがない。北朝鮮はミサイルを打ち上げるし、韓国は相変わらずだし、中国はやりたい放題だし。そんなことよりもパソコンの調子が悪い。どーなってるのかサッパリ分からん。トリセツを読むのはできれーだ。

今夜もまた孫たちと一緒に。あいつらはしょっちゅう喧嘩するし、じーじのことは無視するし。そう言えば、書こう会の原稿がまだだった。何を書こうか、何かないか。ネタ切れで困った、困った。イヤ、それよりも先ずトイレにいかなくっちゃ。トシをとると近くなっていけねえ。

いつまでも蒲団にいと詰まらんことばかり考えるので、起き上がって机に向かう。世界史ノートの改訂版だ。今回は首藤さんの水銀朱と志村さんのアルザスの話を借用する。

そのうちに明るくなったので朝刊を取りに行き、玄米粥の準備にかかる。カミサンも起きてくるし、暁の憂きものもどこかへ行って、テレビのニュースを見ながら朝食をとる。後片付けをして一服したら、近所のスーパーにお買い物。

天気さえよければ、午後は気の向くままにウォーキング。一日があつという間に過ぎる。一週間も一ヶ月もいつのまにか経過。お迎えが来る日まで、こんなことをして過ごすのか。

イヤそうじゃない。もうじきコロナ終われば、また皆で飲み会だ。盃ばかり嬉しきものはなし

(八〇六字)